

社会技術研究開発事業
令和6年度研究開発実施報告書

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（情報
社会における社会的側面からのトラスト形成）」
プログラム

ニュース発信者と受信者間における「トラスト」形成

藤代 裕之
(法政大学 教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2-1. 研究開発目標.....	2
2-2. 実施内容・結果.....	2
2-3. 会議等の活動.....	5
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	6
4. 研究開発実施体制.....	6
5. 研究開発実施者	8
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	10
6-1. シンポジウム等.....	10
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	10
6-3. 論文発表.....	12
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	13
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等.....	15
6-6. 知財出願（出願件数のみ公開）	16

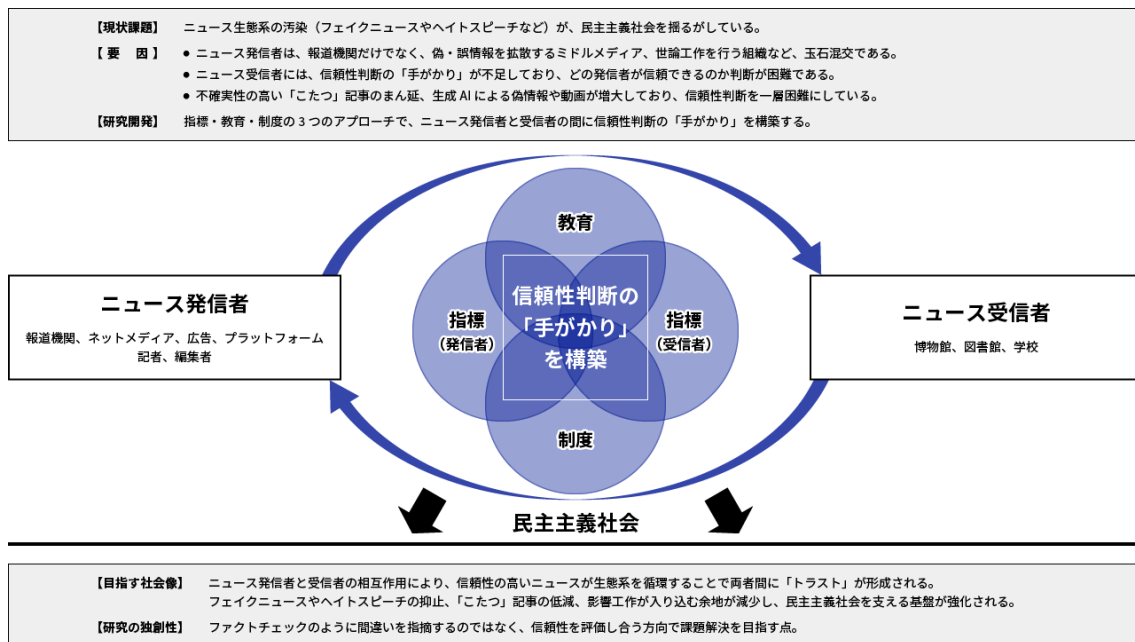
1. 研究開発プロジェクト名

ニュース発信者と受信者間における「トラスト」形成

2. 研究開発実施の具体的内容

2 - 1. 研究開発目標

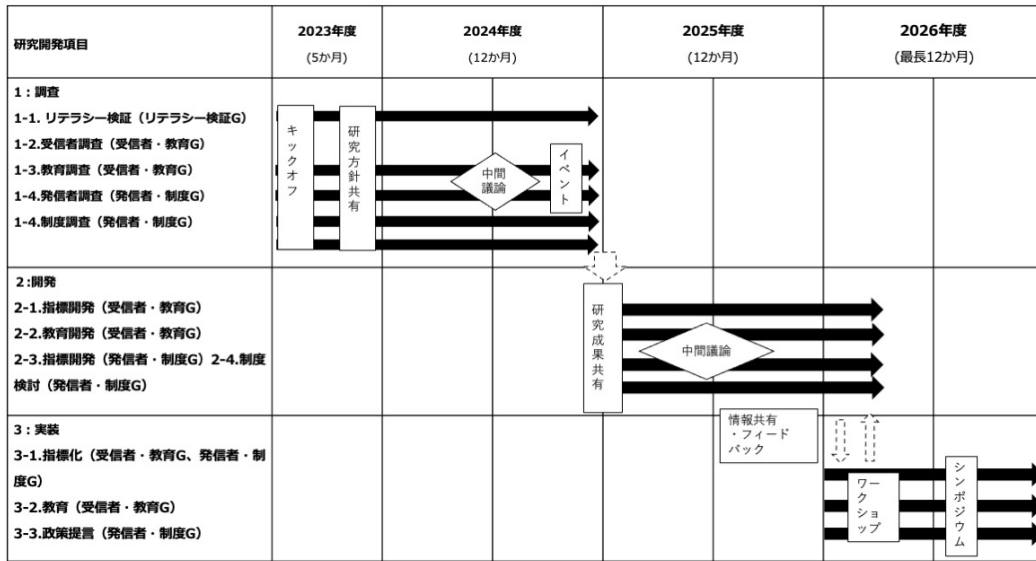
本プロジェクトは、インターネットにおけるニュースの信頼性向上を目指し、ニュース発信者と受信者間における「トラスト」形成を目標とする。



2 - 2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

2024年度は開発に向けた調査を行った。中盤に各グループの調査やプロトタイピングの状況を共有する「中間議論」を行い、グループが連携して研究を進めるための議論を行った。年度末には全体で「研究成果共有」を行い、2025年度の研究計画立案やスケジュールの確認を行った。また、メディア関係者を対象にしたアウトリーチ活動を行い、社会実装に向けた連携を呼びかけた。



(2) 各実施内容

■リテラシー検証 (実施者：リテラシー検証グループ)

- どのようなリテラシーが偽・誤情報対策としてどの程度の効果を持つのかや、人々のメディアに対する信頼がどのように形成されるかを定量的に明らかにする。

■受信者調査 (実施者：受信者・教育グループ)

- 指標開発に向け、国内外の調査とプロトタイピングを行う。
 - ・ 2023年度に調査した海外団体に対しヒアリングを行う。国際会議に参加し、取り組みの調査を行う。
 - ・ ニュースに対する信頼性の判断を調査する。
 - 大学生を対象にインタビュー調査を行い、ニュースに対する信頼性判断基準や阻害要因を明らかにする。
 - 2023年度に収集したはてなブックマークのコメントを用いたユーザー実験を行い、ニュースの受け取り方と信頼性の判断の関係について検討する。
 - テレビ番組やインターネットの記事を収集し、分析してニュースの信頼に対する判断の関係について検討する。
 - プロトタイピングでは、2023年度に収集したヤフーニュースの記事から「こたつ」記事の特徴を分類し、ニュース記事から「こたつ」記事を判定する仕組みを検討する。

■発信者調査 (実施者：発信者・制度グループ)

- 国内と海外の発信者を対象に信頼性向上の取り組み実態を調査する。
 - 日本においてニュースの消費者に信頼を醸成するための仕組みの現状を整理するため、日本の主要なメディアが公開している倫理規定などを調査し、メディア

間の比較を行う。

- 海外におけるニュースの信頼を確立するシステムについての条件や項目を整理するため、モデルになり得る信頼を得る仕組みを提言している海外の団体をヒアリング調査や Google 主催の「Trusted Media Summit」などのカンファレンスに出席する。
- 放送局や新聞社などの中継局や支局などからなる「トラストなニュース制作基盤」の変容を分析、課題の抽出を関係者へのヒアリングなどで明らかにする。

■教育調査（実施者：受信者・教育グループ）

- 教育プログラム開発に向け、信頼性に関する取り組みや課題についての調査を行う。
 - ドット道東（北海道北見市）などローカルメディアの運営者を中心に、信頼性についてどのような取り組みを行っているのか、教育プログラムの内容や課題ツールについてヒアリング調査を行う。

■制度設計（発信者・制度グループ）

- フェイクニュースや偽・誤情報対策の法的制度やニュースに関するガバナンスモデルについて国内外の研究を調査する。

（3）成果

■リテラシー検証（実施者：リテラシー検証グループ）

- どのようなリテラシーが偽・誤情報対策としてどの程度の効果を持つのか、人々のメディアに対する信頼がどのように形成されるかを定量的に明らかにする調査を実施した。

■受信者調査（実施者：受信者・教育グループ）

- 指標開発に向け、国内外の調査とプロトタイピングを行った。
 - 大学生を対象にニュースに対する信頼性の判断基準や阻害要因の調査と分析を行った。
 - 能登半島地震に関する Yahoo!ニュースの記事から「こたつ」記事の特徴を分析するとともに、そのデータを用いて「こたつ」記事を判定する仕組みを検討した。
 - ニュース記事に付与されたコメントが読み手の受容態度にどのような影響を及ぼすかについて調査・検討を行った。
 - 兵庫県知事選挙に関するインターネットのニュース記事やコメント、テレビ番組を収集した。

■発信者調査（実施者：発信者・制度グループ）

- 国内と海外の発信者を対象に信頼性向上の取り組み実態を調査した。
 - 日本においてニュースの消費者に信頼を醸成するための仕組みの現状を整理するため、主要メディアが公開している倫理規定・報道取材ルールを収集整理し一定の傾向をまとめ、報道責任者にインタビューを行った。

- フランス AFP とフィンランド yle、EU の取り組みであるジャーナリズム・トラスト・イニシアティブ (JTI) の中核である国境なき記者団に対し、ヒアリング調査を行った。
- 放送局や新聞社などの中継局や支局などからなる「トラストなニュース制作基盤」の変容をデータから分析した。

■教育調査（実施者：受信者・教育グループ）

- 教育プログラム開発に向け、ローカルメディアに関する信頼性の取り組みや課題について研究会を行い検討した。

■制度設計（発信者・制度グループ）

- 偽・誤情報対策の法的制度やニュースに関するガバナンスモデルについて国内外の研究を調査した。
- AFP が開発/運用している世界的ファクトチェックツール「InVID」の日本語訳をサポートした。

（４）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

プロジェクトは概ね順調に推移している。2024年は能登半島地震、東京都知事選挙、兵庫県知事選挙、とニュースの信頼性に関する出来事があり、研究に利用するデータの取得を行うことができた。来年度は、各グループがより連携しながら取り組めるように進め方を工夫していく。

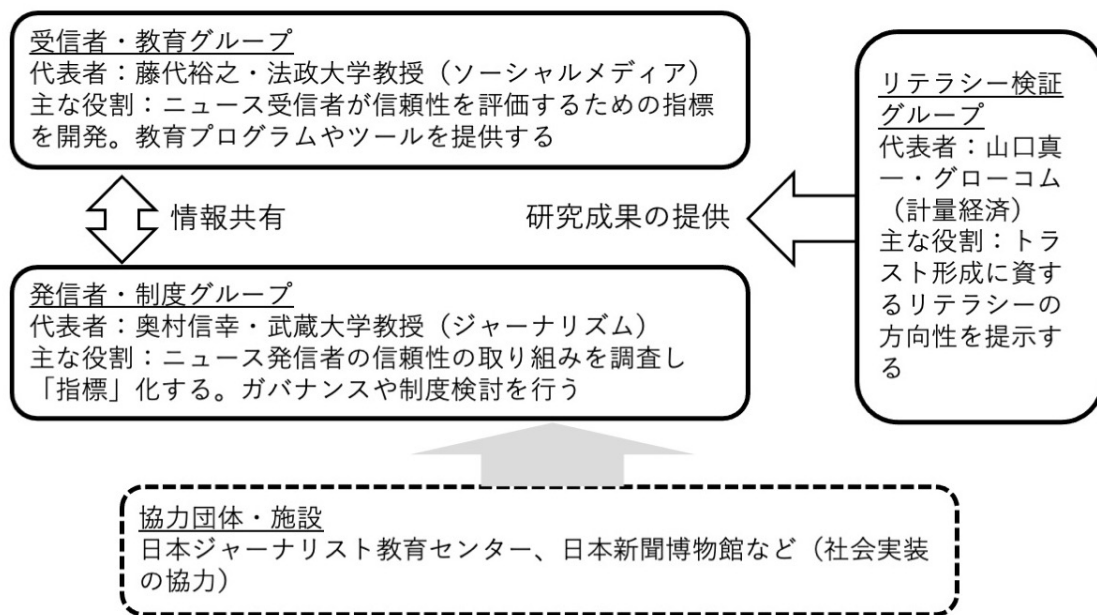
2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2024年9月6日	中間議論	成蹊大学	各グループの調査やプロトタイピングの状況を共有した。
2025年1月17日	研究成果共有	オンライン	2023年度の取り組み共有と、2024年度の研究について議論を行った。
2025年3月7日	「ニューストラスト」偽・誤情報問題の新たな対策	法政大学	PJメンバーから、西田亮介教授と山口真一准教授が研究成果を報告するとともに、参加者とPJメンバーとの名刺交換時間を設け、ネットワーキングを実施した。

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 研究のアウトリーチイベントでは、多くのメディア関係者の参加があり、社会実装に向けた連携を呼びかけた。参加者とPJメンバーとの名刺交換時間を設け、ネットワーキングを実施した。
- 海外の発信者を調査した際に訪問した AFP とのつながりで、AFP が開発/運用している世界的ファクトチェックツール「InVID」の日本語訳をサポートした。日本語を組み込んだ ver0.84 がローンチされた。

4. 研究開発実施体制



研究開発は、受信者・教育グループ、発信者・制度グループ、リテラシー検証グループの3つで実施する。各グループの代表者間には、研究開発期間中にはメッセージャーなどを利用し、進捗状況を共有するようにし、必要があればオンライン会議を実施する。また、主たる実施者もメッセージャーなどで随時連絡を取り合える関係を構築し、開発成果を有機的に統合できる環境を整える。

■受信者・教育グループ（藤代裕之法政大学社会学部教授）

受信者それぞれの関心にもとづいて参照可能になるような「指標」を開発する。「指標」の理解・実践を進めるために「教育」プログラムやツールを開発する。

■発信者・制度グループ（奥村信幸武蔵大学社会学部教授）

発信者の運営や取材方針など信頼性向上の取り組み明らかにし、信頼性の基準や考えを可視化し「指標」を提案するとともに、「指標」に関するガバナンスや法制度の検討を行う。

■リテラシー検証グループ（山口真一国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授）

どのようなリテラシーが偽・誤情報対策としてどの程度の効果を持つのかや、人々のメディアに対する信頼がどのように形成されるかを定量的に明らかにする。

5. 研究開発実施者

受信者・教育グループ（リーダー氏名：藤代裕之）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
藤代 裕之	フジシロ ヒロユキ	法政大学	社会学部	教授
松下 光範	マツシタ ミツノリ	関西大学	総合情報学部	教授
松山 秀明	マツヤマ ヒデアキ	関西大学	社会学部メディア社会学科	准教授
森野 穰	モリノ ユ タカ	関西大学	総合情報学部	大学院生
杉原 昂紀	スギハラ コウキ	関西大学	総合情報学部	大学院生
安尾 萌	ヤスオ メ グミ	関西大学	総合情報学部	大学院生
寺本 優香	テラモト ユウカ	同志社大学	文化情報研究 科	大学院生
吉見 憲二	ヨシミ ケ ンジ	成蹊大学	経営学部	准教授
田中 輝美	タナカ テ ルミ	島根県立大学	地域政策学部	准教授
耳塚 佳代	ミミヅカ カヨ	テキサス大学オ ースティン校		
白井 瞭	シライ リ ョウ	リ・パブリック		
野々山 正章	ノノヤマ マサアキ	ゆめみ		
齋藤 萌音	サイトウ モネ	ユニークビジョ ン		

発信者・制度グループ（リーダー氏名：奥村信幸）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
奥村 信幸	オクムラ ノブユキ	武蔵大学	社会学部	教授
西田 亮介	ニシダ リ ョウスケ	東京工業大学	リベラルアーツ研究教育院	准教授
水谷 瑛嗣郎	ミズタニ エイジロウ	関西大学	社会学部	准教授
井上 直樹	イノウエ ナオキ	NHK/元Google News Labフェロー		
新志 有裕	シンシ ア リヒロ	弁護士ドットコ ムニュース		
金 雯	キン ブン	東京工業大学	環境・社会理 工学院 社会・人間科学系	大学院生

リテラシー検証グループ（リーダー氏名：山口真一）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
山口 真一	ヤマグチ シンイチ	国際大学	グローバル・コミュニケーション・センター	准教授
井上 絵理	イノウエ エリ	国際大学	グローバル・コミュニケーション・センター	客員研究員
大島 英隆	オオシマ ヒデタカ	国際大学	グローバル・コミュニケーション・センター	客員研究員

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2025 年3月7 日	「ニューストラ スト」偽・誤情 報問題の新たな 対策	本PJ 共催：法 政大学社 会学研究 科	法政大 学	50	PJメンバーから、西田亮介 教授と山口真一准教授が研究 成果を報告するとともに、参 加者とPJメンバーとの名刺 交換時間を設け、ネットワー キングを実施した。



6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

- ・ 西田亮介、第5章 デジタルコミュニティと情報流通 情報空間のトラスト（信頼）をどう保つのか、デジタル政策フォーラム編『デジタル政策の論点2024』、pp.72-86、2024
- ・ 水谷瑛嗣郎（聞き手：舟楫格致）、AIとアテンション・エコノミーを考える、読

売クオータリー72号(2025年1月31日) 48-57頁

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・ なし

(3) 学会(6-4. 参照) 以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ Yamaguchi, S. AI, Disinformation, Misinformation and our society.
Governance of Emerging Technologies Roundtable II, Stanford Cyber Policy Center. 2024 年 5 月 10 日
- ・ 山口真一、フェイク情報の蔓延する高度情報社会で求められるリテラシー、令和6年度消費者月間シンポジウム、消費者庁、2024 年 5 月 17 日
- ・ 山口真一、AI が拡大する偽・誤情報問題と求められる対策、生成 AI のセキュリティリスクと対策、東京大学、2024 年 8 月 9 日
- ・ 山口真一、生成 AI で加速するフェイク情報問題：With フェイク 2.0 時代の生き方、令和6年度 文部科学省 ネットモラルキャラバン隊 in 札幌】SNS 時代の真実とウソを見抜く力～子供と一緒に学ぶ情報リテラシー～、文部科学省、2024 年 10 月 14 日
- ・ 山口真一、偽・誤情報問題の現状と有効な対策、ICT 活用のためのリテラシー向上に関する検討会、総務省、2024 年 11 月 26 日
- ・ 山口真一、デジタル社会に潜む脅威と対策：インターネットとうまくつき合うには、令和6年度消費者問題マスター講座、東京都消費生活総合センター、2024 年 11 月 26 日
- ・ 山口真一、人類総メディア時代のインフォメーション・ヘルス、第2回インフォメーション・ヘルスアワード表彰式、2024 年 12 月 13 日
- ・ 山口真一、生成 AI 時代のフェイク情報：With フェイク 2.0 時代の実態と付き合い方、寺子屋朝日 for Teachers、朝日新聞社、2024 年 12 月 21 日
- ・ 山口真一、災害とフェイク情報、災害情報のウソ・ホント メディア情報を読み解く、静岡第一テレビ、2024 年 12 月 7 日
- ・ 山口真一、ウソから身を守ろう！、本当のことを見つける名探偵になろう、朝日学生新聞社、2025 年 2 月 26 日
- ・ 山口真一、With フェイク 2.0 時代に求められるリテラシー、日比谷カレッジ、日比谷図書館、2025 年 2 月 1 日
- ・ 山口真一、フェイク情報と人権：誰もが接することになる高度情報社会の中で、東京都人権プラザ 人権問題都民講座、東京都人権啓発センター、2025 年 3 月 4 日
- ・ 山口真一、ネット世論の特徴と情報リテラシー：「選挙と SNS」から考える、内外情勢調査会富山支部・姫路支部・八王子支部、時事通信社、2025 年 3 月 13 日、14 日、28 日
- ・ 山口真一、偽・誤情報問題の実態と社会的対処、モーニング・フォーラム、日本生産性本部、2025 年 3 月 19 日
- ・ 藤代裕之、偽・誤情報対策の新しいアプローチ ニューストラスト、INODS Unveil (新領域リスクのナレッジ・ハブ) ウェビナー、2025 年 2 月 5 日

- ・ 奥村信幸、ファクトチェックの現在地、INODS Unveil（新領域リスクのナレッジ・ハブ）ウェビナー、2025年2月19日
- ・ 奥村信幸、ローカル放送の価値を生かす、長野朝日放送、2025年2月26日
- ・ 井上直樹、「ニュースの信頼に関する調査について」、マスコミ倫理懇談会、2025年3月18日

6-3. 論文発表

(1) 査読付き（ 1 件）

●国内誌（ 2 件）

- ・ 藤代裕之、フェイクニュース対策における「ニューストラスト」の重要性、情報通信学会誌、41(4) 69-73 2024年5月
- ・ Yamaguchi, S., Oshima, H., Watanabe, T., Osaka, Y., Tanihara, T., Inoue, E., & Tanabe, S. An analysis of literacy differences related to the identification and dissemination of misinformation in Japan. *Global Knowledge, Memory and Communication*, 74(11), 121-139.2025.

●国際誌（ 0 件）

(2) 査読なし（ 17 件）

- ・ 山口真一、AI がもたらすwithフェイク2.0時代の未来と適切な社会的対処、Nextcom (59) 4-13、2025年
- ・ 藤代裕之、フェイクニュースと偽・誤情報対策は、ニュースとコンテンツと広告に分けて検討を、Yahoo!ニュースエキスパート、2024年4月12日
➤ <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/e00b5556916c1115ece4c0a6136edd049187f927>
- ・ 藤代裕之、大学生の都知事選に関する情報・ニュースの接触調査、SNSにもテレビにも偏りを感じている、Yahoo!ニュースエキスパート、2024年7月8日
➤ <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/cabab9aba121a2211691b68fd3122b33f56917a0>
- ・ 藤代裕之、迷走する政府の偽・誤情報対策、INODS Unveil（新領域リスクのナレッジ・ハブ）、2024年7月23日
➤ <https://inods.co.jp/articles/experts/3189/>
- ・ 藤代裕之、SNSを災害時の情報インフラとして位置づけるのをやめるべきではないか、Yahoo!ニュースエキスパート、2024年7月26日
➤ <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/1070818c140f6e9006229a5845bb3f2feea0b7ec>
- ・ 藤代裕之、偽・誤情報対策が開く思想統制への道、INODS Unveil（新領域リスクのナレッジ・ハブ）、2024年8月27日
➤ <https://inods.co.jp/articles/experts/3449/>
- ・ 藤代裕之、各党公約における「偽・誤情報」対策を比較する、INODS Unveil（新領域リスクのナレッジ・ハブ）、2024年10月22日

- <https://inods.co.jp/articles/experts/4349/>
- ・ 藤代裕之、毎日新聞が「こたつ記事」でお詫び なりすましアカウントを見抜
けず、Yahoo!ニュースエキスパート、2024年11月8日
- <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/ad0dd414539f0c7bf1a341157962cab06aacff2f>
- ・ 藤代裕之、兵庫県知事選挙のファクトチェック活動検証を、INODS Unveil（新
領域リスクのナレッジ・ハブ）、2025年1月20日
- <https://inods.co.jp/articles/experts/5082/>
- ・ 藤代裕之、兵庫県知事選挙に関するXのコミュニティノートの内容と評価、
Yahoo!ニュースエキスパート、2025年3月31日
- <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/08a2d0add374429d520ab7f0bdbdb66e03dd7cc4>
- ・ 奥村信幸、ファクトチェッカーはプラットフォームを『フレネミー』と呼ぶ：
グローバルファクト11報告 その①、Yahoo!ニュースエキスパート、2024年8
月12日
- <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/596edd25c6c677c85951e58fe921c4bb5fe2e802>
- ・ 奥村信幸、『ファクトチェックの原点』を問い直す動き：グローバルファクト
11報告 その②、Yahoo!ニュースエキスパート、2024年8月16日
- <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/83675f8e04e49f89f31a4d3bd93b382054701e66>
- ・ 奥村信幸、政治家の暴言を『ふつうのこと』とする見せかけをする選挙報道の
罪、Yahoo!ニュースエキスパート、2024年10月21日
- <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/2f1bb7a263c6b58848b260f73ae64f4584847153>
- ・ 奥村信幸、あのPR会社社長の自宅『直撃』取材で問題にすべきことは何か、
Yahoo!ニュースエキスパート、2024年12月1日
- <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/dc71a0a997647a72889034b9d7a3037085550ddb>
- ・ 奥村信幸、なぜあんな『演説質問』が続いたのか〜フジテレビ10時間会見から
考える構造的課題」Yahoo!ニュースエキスパート、2025年2月6日
- <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/cd18297fb27dc59cbc18197a3c8ae814820d93fb>
- ・ 奥村信幸、能登半島地震と豪雨被害から見る日本の災害報道の課題、月刊『保
険診療』、2025年2月号、36-40頁
- ・ 水谷瑛嗣郎、広告主と国が連携し”PV至上主義”に歯止めを、Wedge vol.37 no.4
(2025年3月20日) 25-27頁

6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演（国内会議 2 件、国際会議 0 件）

- ・ 藤代裕之（法政大学）「偽・情報対策とニューストラスト」情報ネットワーク法学

会、広島大学、2024年12月14日

- ・ 山口真一（国際大学GLOCOM）、ソーシャルメディアの特徴とグループ、日本集団精神療学会 第42回学術大会、Gメッセ群馬、2025年3月23日

(2) 口頭発表（国内会議 10 件、国際会議 3 件）

- ・ 藤代裕之（法政大学）、偽・誤情報とフェイクニュース対策の方向性、第104回EIP研究発表会、立教大学、2024年6月6日
- ・ 藤代裕之（法政大学）、ファクトチェック団体の取り組みを検証する」社会情報学会（SSI）学会大会、香川短期大学、2024年9月15日
- ・ 藤代裕之（法政大学）・井上直樹（NHK）、ニュースメディアの信頼向上の取り組み—欧州におけるAFPとyleを事例に一、2024年度春季（第50回）情報通信学会大会、オンライン、2024年12月7日
- ・ 藤代裕之（法政大学）2024年兵庫県知事選挙におけるYahoo!ニュースの分析、第107回EIP研究発表会、同志社大学、2025年2月14日
- ・ 吉見憲二（成蹊大学）・藤代裕之（法政大学）、大学生はステルスマーケティングをどのように捉えているのか？、2024年度春季（第50回）情報通信学会大会、明治大学中野キャンパス、2024年6月30日
- ・ 吉見憲二（成蹊大学）・藤代裕之（法政大学）、大学生はステルスマーケティングにどのように対抗しているのか？、社会情報学会（SSI）学会大会、香川短期大学、2024年9月15日
- ・ 吉見憲二（成蹊大学）・藤代裕之（法政大学）、大学生のニュース受容に関する一考察、電子情報通信学会技術と社会・倫理研究会（SITE）、アマホーム PLAZA、2025年3月4日
- ・ 安尾萌（立命館大学）・藤代裕之（法政大学）・松下 光範（関西大学）、オンラインコメントがニュース閲覧者の賛否態度に与える影響の調査、第21回テキストアナリティクス・シンポジウム、北海道大学、2024年9月2日
- ・ 井上梨花花（関西大学）・畑玲音（関西大学）・松下光範（関西大学）、ニュースに対するコメントの属性提示が意見形成に与える影響の調査、第17回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム、オンライン、2025年2月27日
- ・ 茂木奈々瀬（関西大学）、畑玲音（関西大学）・安尾萌（立命館大学）、松下光範（関西大学）、LLMによる生成コメントがもたらすニュースの印象変化分析、第17回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム、オンライン、2025年2月27日
- ・ Yutaka Morino, Mitsunori Matsushita, Hiroyuki Fujishiro, Vocabulary Cross-Contamination between Entertainment Content and Disaster-Related Social Media Posts, 2024 International Conference on Information and Communication Technologies for Disaster Management, Setif 1 University, 2024年11月20日
- ・ Yuka Teramoto, Takahiro Komamizu, Mitsunori Matsushita, Kenji Hatano. Feature Extraction for Claim Check-Worthiness Prediction Tasks Using LLM, The 26th International Conference on Information Integration and Web Intelligence, 2024年12月3日

- ・ Megumi Yasuo, Hiroyuki Fujishiro, Mitsunori Matsushita. Effects of Online News Comments on Attitude Formation of Readers, The 2024 Conference on Technologies and Applications of Artificial Intelligence, 2024年12月6日

(3) ポスター発表 (国内会議 2 件、国際会議 1 件)

- ・ Hiroyuki Fujishiro, Mone Saito, Media covers garbage news from the social media in times of disaster -Polluting the news ecosystem in Japan- 、International Conference on Social Media & Society 2024、London College of Communication (LCC)、2024年7月17日
- ・ 井上梨々花 (関西大学)、畑玲音 (関西大学)、松下光範 (関西大学)、ニュースに対するコメントの属性提示が意見形成に与える影響の調査、第17回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム、九州国際会議場、2025年3月3日
- ・ 茂木 奈々瀬 (関西大学)・畑玲音 (関西大学)、安尾 萌 (立命館大学)、松下 光範 (関西大学)、LLMによる生成コメントがもたらすニュースの印象変化分析、第17回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム、九州国際会議場、2025年3月3日

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (25 件)

- ・ 藤代裕之、SNSの凍結問題を考える、TBSラジオまとめて!土曜日、2024年6月1日
- ・ 藤代裕之、官製ファクトチェック、その懸念点とは?、TBSラジオまとめて!土曜日、2024年8月17日
- ・ 藤代裕之、やめよう、SNSへの過度な期待、産経新聞、2024年8月29日
- ・ 藤代裕之、第16章・震災デマを考える 「SNS使えないね」が教訓 災害時インフラとして機能せず、北國新聞、2024年9月24日
- ・ 藤代裕之、こたつ記事からみる衆院選、TBSラジオまとめて!土曜日、2024年11月2日
- ・ 藤代裕之、兵庫県知事選とSNS ファクトチェック、難しさ浮き彫り、産経新聞、2024年12月19日
- ・ 藤代裕之、IT大手・メタがファクトチェックをアメリカで廃止。何が起きているのか?、TBSラジオまとめて!土曜日、2025年1月18日
- ・ 藤代裕之、偽情報に苦しむ企業 SNS炎上で破産も 識者「現状は抑制不能」、共同通信 (神奈川新聞、京都新聞、山陽新聞、中国新聞、琉球新報など掲載)、2025年2月
- ・ 藤代裕之、兵庫県知事選挙 Xの「コミュニティノート」ほとんど機能せず、NHK、2025年3月24日
- ・ 奥村信幸、なるほどワイド ファクトチェック、毎日新聞、2024年11月3日
- ・ 奥村信幸、ファクトチェック機関、運営岐路に 資金難や外部圧力で、日本経済新聞、2024年9月11日
- ・ 奥村信幸、米メタ ファクトチェック廃止発表 日本や世界にどう影響、毎日新聞、2025年2月4日

- ・ 西田亮介、偽情報は現実の社会問題になっているのか？急速な政策課題化を懸念、TBS ラジオまとめて!土曜日、2024 年 4 月 20 日
- ・ 西田亮介、新聞社の非マスメディア化。誰が報道を担うのか？、TBS ラジオまとめて!土曜日、2024 年 9 月 14 日
- ・ 西田亮介、ネットで広がる言説「穴」を突いた斎藤陣営の戦略 西田亮介さん：朝日新聞、2024 年 11 月 18 日
- ・ 西田亮介、兵庫知事選の敗者はマスメディアか 西田亮介教授「報道が時代遅れ」、毎日新聞、2024 年 11 月 26 日
- ・ 西田亮介、選挙をめぐるメディアの報道と加速するネット上での選挙活動。今後、注目すべき点は？、TBS ラジオまとめて!土曜日、2024 年 11 月 30 日
- ・ 西田亮介、SNS 影響、単純化に懸念 背景にメディア不信—ネットと選挙・日大教授：時事ドットコム、2024 年 12 月 26 日
- ・ 西田亮介、フジ側と記者側、10時間会見で双方に見えた「課題」西田亮介氏：朝日新聞、2025年1月28日
- ・ 水谷瑛嗣郎、SNS事業者対象、情プラ法成立 投資詐欺、歯止めになるか、毎日新聞、2024年5月27日
- ・ 水谷瑛嗣郎、SNS 広告 審査強化要請...政府 なりすまし詐欺急増で、読売新聞、2024年6月19日
- ・ 水谷瑛嗣郎、(時時刻刻) 記事抜き出すAI、見えぬ共存 取材コストまかなえず「民主主義の基盤揺らぐ」、朝日新聞、2024年7月18日
- ・ 水谷瑛嗣郎、イーロン・マスク氏とトランプ次期大統領 急接近でXは？、NHK Web、2024年11月16日
- ・ 水谷瑛嗣郎、(時時刻刻) 偽情報対策、揺り戻し 保守派から「検閲」批判、メタが路線転換、朝日新聞、2025年1月9日
- ・ 水谷瑛嗣郎、(ネットと災害：6) 「偽情報で金もうけ」絶つ 「表現の自由」と両立、求めて、朝日新聞、2025年1月12日

(2) 受賞 (2 件)

- ・ 井上梨々花、畑玲音、松下光範、DEIM2025学生プレゼンテーション賞 (ニュースに対するコメントの属性提示が意見形成に与える影響の調査) 九州国際会議場、2025年3月3日
- ・ 山口真一、Nextcom論文賞 (AI がもたらす with フェイク 2.0 時代の未来と適切な社会的対処)、KDDI総研、2025年1月30日

(3) その他 (0 件)

6-6. 知財出願 (出願件数のみ公開)

(1) 国内出願 (0 件)

(2) 海外出願 (0 件)